

今の特集 「調査研究事業②」

今回は前回に引き続き「調査研究事業」のご紹介をします。

「郡山の子どもたちの心と体の発育見守り事業」 （生活習慣アンケート調査）

この事業は市内全体、そして個人について子どもたちの傾向・変化を10年間にわたってアンケート形式で調査するものです。今回は、26年度の調査結果を掲載しました。

生活習慣の具体的な問題点は

- ①メディアとの接触時間が長い
→コミュニケーション能力をはじめ心の発達に影響
- ②座位の時間が長い
→体をつかう機会が減る
- ③就寝時間が遅く、短時間である
→必要な睡眠時間が確保できず、翌日の体調に影響が出る。朝食を食べない割合が増え、その結果肥満や成績不振につながる。

それを
防ぐために…

フィードバック、その後の取組み

調査結果は郡山市の教育委員会と各施設に冊子にして配布しています。各団体が取組みの方針を見直せるよう調査チームが分析・提案をし、改善を目指していきます。どのような取組みを行うべきか、家庭の中への指導をどれ位踏み込んで行うべきか悩みを抱える施設は多いものの、協力しあえる仕組みを目指しています。

そして…

- ・ **体力・運動能力が低下している子ども、肥満・やせ児の増加**
- ・ **心の問題を抱えている子どもの増加**

体力テスト

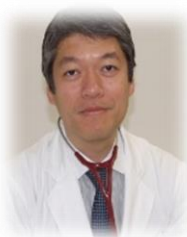
現在全国的に行われている新体力テスト(小学5年生、中学2年生対象)は1964年に始まった旧体力テストを前身とし、子どもたちの運動能力を調査しています。

郡山市では(株)学研ホールディングス様、(株)学研教育みらい様が2012年から市内の小中学生全員を対象に広げ、調査を始めました。被災地の中では初めての試みです。今年度からは市の教育委員会と当NPOが主体となり調査を開始します。

今後、結果は本人に返却し今後配布される「自分手帳」で振り返りができるようになります。

前回の東京オリンピックを契機に、日本人の体力・運動能力が測定されるようになりました。先日の体育の日に発表された結果では、最も元気なのはお年寄りの方々ということでした。肝心の子どもたちの体力・運動能力は30年前に比べるとかなり低迷していることが指摘されています。この30年の間に、子どもたちの生活習慣・環境は大きく様変わりしました。

子どもたちの体力・運動能力は日々の遊びや運動習慣によって培われます。子ども的一生の土台は幼少期に形成されます。私たちは、子どもたちの遊び環境をしっかりと整え、一生を元気に過ごせる体作りの後押しをしなくてはなりません。



理事長
菊池 信太郎